

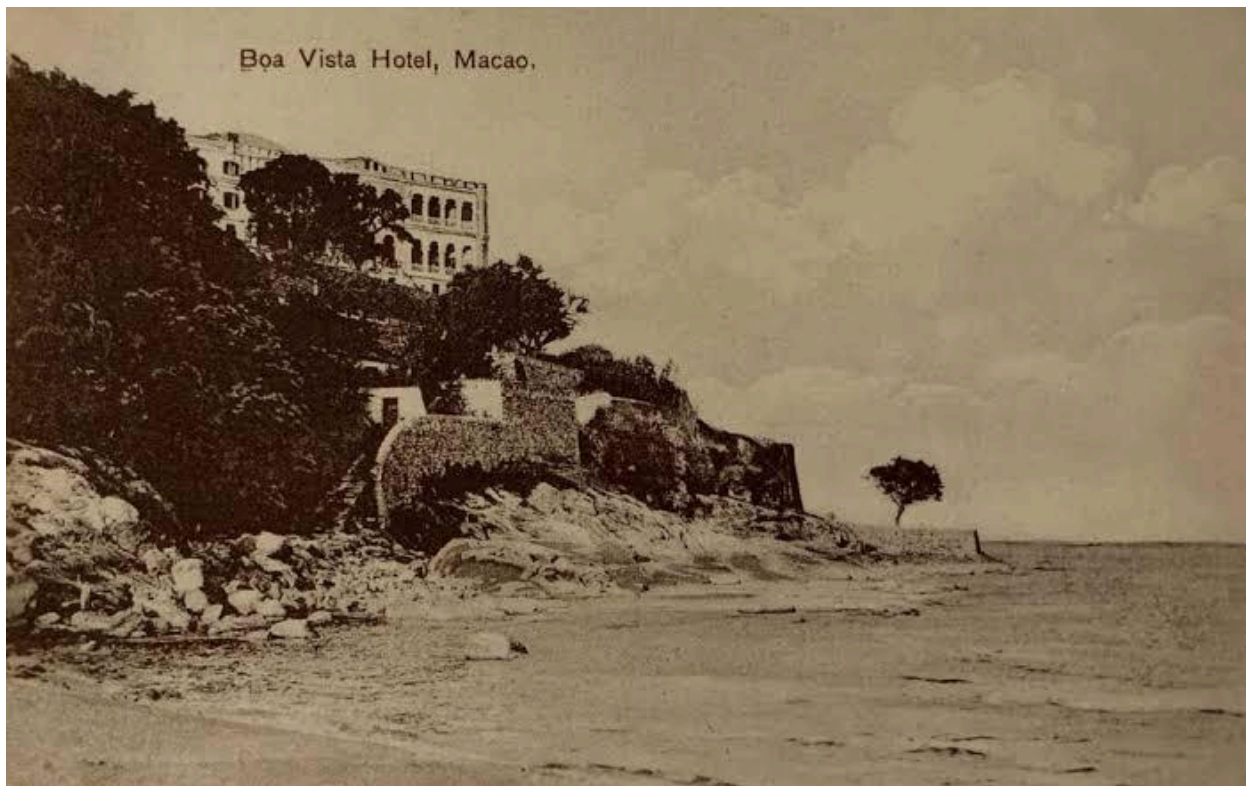
マカオのペンニャの丘(西望洋山)に佇む「ホテル・ベラヴィスタ(Hotel Bela Vista / 峰景酒店)」ですね。沢木耕太郎さんの小説『深夜特急』にも登場し、そのクラシカルな佇まいに憧れる旅人も多かった伝説のコロニアルホテルです。

Macau Lifestyle

残念ながら1999年にホテルとしての営業は終了していますが、建物は現在もマカオの重要な歴史的建築物として残されています。当時の資料や歴史の変遷をまとめました。

澳門博物館

1900年頃のホテル外観(古絵葉書より)



1900年頃の「ボアヴィスタ・ホテル」時代. ソース: Macau Lifestyle

1988年撮影のベラヴィスタホテル

ホテル・ベラヴィスタの歴史と数奇な運命

ベラヴィスタ(ポルトガル語で「美しい景色」の意)は、その名の通り、かつて目の前に広がっていたサイヴァン(西湾)の美しい海を一望できる特等席に建てられました。130年以上の歴史の中で、単なるホテルに留まらない様々な役割を果たしてきました。

Cigar Aficionado他 1 件
私邸から「ボアヴィスタ・ホテル」へ
1870年～1890年

1870年頃にイギリス人実業家夫妻の私邸として建設されました。その後、抜群のロケーションを活かして1890年に**「ホテル・ボアヴィスタ(Boa Vista / 佳景酒店)」**として開業します。

学校や療養所への転用
20世紀初頭

経営難や時代の波に押され、一時期はフランス軍の療養所や、マカオ初の公立中学校(Liceu de Macau)として使われました。ポルトガルの高名な詩人カミロ・ペサーニャもここで教鞭を執った記録があります。

「ベラヴィスタ」への改名と戦時下の避難所
1936年～1945年

1936年に正式に**「ホテル・ベラヴィスタ」**と改名されます。第二次世界大戦中は、日本軍に占領された香港や上海から逃れてきた何千人もの難民や避難民を收容する保護施設となりました。

伝説のバックパッカー宿から最高級ホテルへ
1960年代～1990年代

戦後はイギリス軍の保養所を経て再びホテルへ。60～70年代は『深夜特急』の時代のように、香港からの駐在員やバックパッカーがのんびりとテラスでワインを飲む、少し寂れたボヘミアンな名門宿でした。その後1990年代に入ると、マンダリン・オリエンタルグループの手によって4500万パタカを投じた大改装が行われ、わずか8室のみの最高級コロニアル・ブティックホテルへと生まれ変わりました。

ホテルの閉幕、そして現在の姿へ
1999年～現在

マカオが中国へ返還された1999年、ホテルとしての歴史に幕を閉じました。現在は在マカオ・香港ポルトガル総領事公邸となっており、一般の立ち入りは原則禁止されている外交の舞台となっています。

建築と文化的なエピソード

Heritage hotels

- 名作の舞台：ピアース・ブロスナン主演のTV版『世にも怪奇な物語 / 80日間世界一周』（1988年）のロケ地になったり、イギリスの作家オースティン・コーツがこのホテルのベランダでお気に入りの部屋から執筆活動を行ったりしていました。

Heritage hotels

- 消えた「美しい景色」：かつてテラスの目の前はすぐ開放的な海（大湾）で、ジャンク船やサンパンが行き交うロマンチックな風景がありましたが、現在の目の前は大規模な埋め立てが進

み、マカオタワーや高層ビル、人工湖(西湾湖)へと景色が一変しています。

Heritage hotels

- ベラヴィスタの面影を感じる場所：現在のマカオにあるホテル「アーティゼン・グランド・ラパ・マカオ(旧ウェスティン/グランドラパ)」内にある「カフェ・ベラヴィスタ(Café Bela Vista)」は、この旧ベラヴィスタホテルの美しいアーチ状のバルコニーや、藤の椅子、クラシックな天井ファンといったインテリアを忠実に再現して作られており、当時の雰囲気を楽しむことができます。

Artyzen Hospitality Group

通常は公邸のため中に入れませんが、たまに臨時のアート展などで庭園や一部が一般開放されることがあり、今でもマカオの人々や歴史ファンに深く愛され続けている建物です。

ArtBiz Asia

このホテルについて、さらに詳しく知りたい情報はありますか？

『深夜特急』で描かれたマカオの足跡を見る

現在の「カフェ・ベラヴィスタ」について調べる